

「JFN賞2011」各賞決定！**「企画部門」大賞**

FM AICHI / ラジオ・ミュージカル 本能寺が燃える

「CM大賞」

TOKYO FM 「2011年の食卓」(40秒)

「統一部門賞・みんなのよい食プロジェクト賞」

TOKYO FM 「2011年の食卓」(40秒)

TOKYO FMをはじめJFN（全国FM放送協議会）加盟38局が、放送活動並びに新規事業の活性化と質的向上を目指し、社会的影響力や企画力からJFNグループ全体の発展に大きく貢献した局を表彰する「JFN賞」各賞が決定いたしました。

本年度「JFN賞2011」の表彰式は7月21日、TOKYO FMホールで行われ、今年の「企画部門」大賞には、FM AICHIの「ラジオ・ミュージカル 本能寺が燃える」が決定しました。同ラジオ・ミュージカルは「名古屋文化の振興を願ってミュージカルの制作を」という熱い想いから、主に名古屋地区で活躍する経営者・文化人・ビジネスマンらによる有志が集い、本能寺の変に至るまでのエピソードをモチーフに、悲しくも壮絶な男女の生き様を重厚な音楽と共に、完全オリジナルのラジオ版ミュージカルとして展開されました。名古屋地区の文化振興を目的としたラジオ番組でしたが、その話題性やリスナーの反響の大きさも後押しし、CD発売、番組イベントの実施や特別番組の放送、そして、待望の舞台公演と更なる発展を遂げました。企画性、話題性、その充実した内容が、FM AICHI、JFNのクリエイティブ力を世に印象付けることに大きく貢献した功績をたたえ、今回の大賞となりました。また、優秀賞には、TOKYO FMの「三菱商事 presents FM FESTIVAL 2011 未来授業～明日の日本人たちへ～」、K-MIXの「10周年を迎えたサークルK&サンクス共同開発ドリンク『ちゅう』」がそれぞれ選ばれました。

そして「CM部門」の最優秀作品に贈られる「CM大賞」は、統一部門からTOKYO FM制作の「2011年の食卓」(40秒)、第1部門(20秒以内)最優秀賞には、FM福岡制作の「うわさばなし」(20秒)、第2部門(21秒以上)最優秀賞にはFM大阪の「おいしく」(60秒)がそれぞれ選ばれました。

JFN加盟各局が協賛企業の提供するテーマのもと、制作、優秀作を決する「統一部門賞」では、今回はJAグループ「みんなのよい食プロジェクト」のCM制作を各局競った結果、TOKYO FMの「2011年の食卓」(40秒)が最優秀作として「みんなのよい食プロジェクト賞」に選出されました。

今回、創設された天野祐吉賞、小野田隆雄賞、弘兼憲史賞には、FM鹿児島制作の「母の日『大きくなったらお母さん 麻央 ver.』」(60秒・第2部門)、FM山陰制作の「いかにも山の陰って感じ」(40秒・統一部門)、FM石川制作の「五色生菓子」(40秒・統一部門)がそれぞれ選ばれました。

今回の「JFN賞2011」について、特別審査員長の天野祐吉氏は「3月11日に発生した東日本大震災以降、色々なものがガラッと崩れてしまい、この機会にどうしたら本当に豊かな生活が出来るのか考え直さなければならなくなった。その兆しが今回(JFN賞2011)に集まっ

たCMにもあらわれている。来年以降はもっとあらわれてくるだろう。」と総評し、CM大賞に輝いた TOKYO FM制作 JA グループ「2011年の食卓」については「単に食べることを見直すだけではなく、生活全体を見直していこうということ呼びかけている広告。単に食べるだけではなく、生きるということを見直すという内容が、大変タイムリーな作品だと思った。」と評価しました。

特別審査員の小野田隆雄氏は、自身で選出した小野田隆雄賞 授賞作品 FM山陰制作 JA グループ「いかにも山の陰って感じ」について、「広告をつくるというポジションは、営業や広報の立場にいてはいけない。半分会社に身を置いて、半分は社会に身を置くべきだと思う。一歩はなれたところでクリエイティブをつくっていくことが必要だと思う中で、ひとつの作品がひっきりなしにこの作品を選んだ」と述べました。

また、同じく特別審査員の弘兼憲史氏は、弘兼憲史賞 授賞作品 FM石川制作 JA グループ「五色生菓子」について、「コピーそのものは実直で地味だが、最初からの音楽が素晴らしく、構成も良かった。また、「ニッポンに幸あれ」というコピーが、この大変な時期の日本にふさわしいと思う、この作品を選んだ」とコメントしました。

各賞の結果は次の通り。

◎ JFN賞・企画部門

「JFN賞・企画部門」は加盟各局がエントリーした年間の放送・事業・営業活動事例をJFN各委員会委員長から成る「JFN賞選考委員会」が選定する。今年は、エントリー20社38件の中から、先に開催された選考委員会で以下の各賞が決定した。

■大賞

FM AICHI/ラジオ・ミュージカル 本能寺が燃える

ラジオ・ミュージカル「本能寺が燃える」は、戦国時代、織田信長に仕えた武将「明智光秀」の視点から本能寺の変に至るまでのエピソードをラブ・ストーリー風に描いた作品。2010年、名古屋城開府400年記念の10月から12月までの3ヵ月間、毎週木曜日に15分、全12回放送された。出演者たちはプロのオペラ歌手から営業マン、学生らが全員ボランティアで協力。リスナーの反響と話題性からCD発売、番組イベントの実施、そして、待望の舞台公演と更なる発展を続けている。尚、本作は第48回ギャラクシー賞奨励賞を受賞している。

■優秀賞

TOKYO FM/三菱商事 presents FM FESTIVAL 2011 未来授業~明日の日本人たちへ~

10年後に日本の主軸となる学生を対象に、3人の知の巨人が1日限りの「未来授業」を開講した。10年後のニッポンを見据え、そこを生き抜くヒントを考える知の巨人達の特別講義は、次世代を担う大学生をはじめとする若い世代を触発して元気づけ、未来の希望を語りかける場となった。国際政治学・姜尚中、解剖学・養老孟司、環境科学・北野大各教授が、学生に発言を求めながらの特別講義は、3教授の厳しくも優しい眼差しが印象的で、そのメッセージを受け止める若者の姿も生き生きとし、ラジオでも「講義系」「知性系」が新しいコミュニケーションアイテムになると実感した。番組総合司会は脳科学者茂木健一郎さん。番組と同時にコンテンツ映像版も配信したが、その完全版がiTunes Store ビデオポッドキャストランキングで放送後2日目にCNNに続いて世界第2位となり、3週間後には120万ダウンロードを記録。また、営業的にも環境省と新規大手クライアントの三菱商事を決定した。

■優秀賞

K-MIX/10周年を迎えたサークルK&サンクス共同開発ドリンク「ちゅう」

2001年からスタートしたK-MIXとサークルK&サンクス共同開発ドリンク「ちゅう」は2010年で10周年を迎えた。静岡のみかんをベースに毎年味を変えて静岡県内のみで発売されている。「ちゅう」から始まり、スイーツ等商品タイアップは増殖中。近年では午後ワイドパーソナリティがK-MIXフレンドリーアーティストとキャンペーンソングを歌い、静岡県内332店(2011年

3月末現在)で販売を盛り上げている。本企画を10年継続するという事は、リスナー、メーカー、流通の3者に好評を博していることの表れであると共に、K-MIXのブランドも浸透させている。

■奨励賞

FM北海道/仏教におけるFM局との取り組み

浄土真宗本願寺派(西本願寺)の親鸞聖人750回大遠忌の事業の一環として、「希薄になってしまっている寺院と民との関係を深める企画」からスタート。大切な人への手紙を軸に番組を展開。イベントでは公開録音や葬儀をテーマにしたセミナー、オリジナル演劇等により10,000人以上を集客し、大盛況を収めた。また、若者をターゲットに寺院の本堂を一日限りのライブ会場として開放し、仏教とクラブジャズミュージックを融合させた企画「CLUB 阿弥陀 BAR」を実施。約1,000人のリスナーを集め、こちらも大盛況を収めた。

■奨励賞

FM大阪/SDD こどもサミット〜尊く大切な命のために〜supported by アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン

2006年8月、音楽を通じた社会貢献活動として飲酒運転撲滅プロジェクト「SDD」を立ち上げ、4年目となる昨期は、『アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン』のパートナーを得て、こどもたちの目線と言葉で飲酒運転撲滅を考えるイベントを、北海道、仙台、東京、愛知、大阪、広島、福岡のJFN基幹7局で展開。さらに7地区のこどもたちが代表として2月20日に大阪城ホールに集結し『SDDこどもサミットを』開催。大人たちに向けて、飲酒運転撲滅を願うこどもたちの真剣なメッセージを大阪城ホールのステージから発信した。このコンクールの内容を55分特番として7局で放送。全国共通パートの制作をFM OSAKAが行い、番組の中盤の本編25分を7局それぞれが制作。ご当地のコンクールの内容を反映した番組制作を各局が協力して行った。

■奨励賞

JFNC/THINK ABOUT AIDS 2010

妊娠時の検査によりHIV感染が発覚した石田心さんと岩室紳也医師、そして、JFNCパーソナリティ井門宗之が現在の日本が抱えるHIV感染者やエイズ患者の現状を織り交ぜながら、HIVに対し正しい知識で向き合う事の大切さを訴えた。数字やデータだけでは気付けない、エイズという病気が抱える根幹の問題を、医師やキャリア当事者の声を通じて広く伝えていく為に制作した本作は、10年以上続く特別番組となっている。

■特別賞

TOKYO FM・FM鹿児島/放送本線用コンポジット伝送装置の開発・親局送信所移転について

コンポジット伝送はステレオ音声のほか、文字データを一括して伝送可能な利便性を有しており、将来的にも維持が必要な伝送方式である。M・Nバンドへの全面移行後も現状の運用が維持できるよう、平成20年総務省技術試験事務の基礎研究開発成果をベースに全国各社での様々な環境での運用を考慮し、複数の伝送装置の共同開発、商品化を行った。

アナログテレビ終了に伴い、親局送信所の移転を迫られていたFM鹿児島は、空中線を自前で設置すること、送信機を新規導入すること、伝送系を有線系とすること、自前で局舎を建築することの4項目を前提条件に従来の既成概念にとらわれない基準でメーカーの選定に入った。検討の結果、サムウェイ社のFMD-2000Tを採用、また、伝送系についてはIPコーデックを使用した有線系の伝送システムを導入した。開局当時の導入経費と比較すると半分以下に削減することができた。

■特別賞

FM青森/FM青森 放送事故通期ゼロの達成

放送事故を減少させる事がJFNグループの活性化とブランド力向上に寄与するという命題を掲げ事故件数の減少に努めてきた。そうした中、FM青森は、平成19年度は8件、平成20年度は2件、平成21年度は1件と年を追って事故件数を減少させ、翌22年にはついに年間無事故を達成した。CM・放送運行やパブリシティ、改編作業等、5つの項目にわたり、細かくチェック体制、指針を構築、そして、運営した結果、年間無事故を達成した。民放連では、サス番組での

事故は放送事故としてカウントしていないが、JFNでは、サス番組も含め営業関連以外の事故も放送事故とし、民放連よりも厳しいカウント方式を行っている。そのような中、FM青森は口頭だけでなく文書による指示、2～3名による複数確認等を徹底し、事故の起こらない社内体制作りに尽力した。尚、2010年度においてラジオ全局中、無事故局はFM青森のみである。

■地域賞

FM ぐんま／FM ぐんま開局 25 周年記念企画 The Roots～Boys be アグリシャス～

開局 25 周年を記念し、一年を通じて日本人のみならず＝「ルーツ」である農業に迫るプロジェクトを発足。番組内では、「作る」「知る」「食べる」「遊ぶ」を切り口に様々な角度から農業にアプローチした。農業を学んでいる県立中之条高校の学生たちと共にパーソナリティが農作業に取り組み、無農薬で育てたお米を一緒に収穫することで喜びを分かち合った。

■地域賞

広島 FM／～神々の海を、明日へ～宮島・千疊閣 元ちとせ 奉納演奏会

世界文化遺産 宮島・厳島神社に於いて、国の重要文化財に指定されている千疊閣で宮島の自然を愛しみ、その美しさを明日へ引き継ぐための願いを神々に捧げる元ちとせ奉納演奏会を実施した。環境保全活動に注力しているアサヒビールをはじめとした協賛を得、また、チケットも完売するなど、企画の壮大さや話題性により地域の環境保護啓発活動に貢献した。

■地域賞

FM 宮崎／口蹄疫復興支援事業「WEEKEND JAM 特別編 トークライブ・イン 川南」

口蹄疫被害に対し、県域放送局として「元氣な宮崎」「畜産王国・宮崎」、そして、地域経済の一日も早い再生・復興のため少しでも役に立ちたいという思いと、長瀬剛氏も今回の口蹄疫被害に対し心を痛め、被災地の方々のために何か届けたいと思う気持ちを重ね合わせ、非常に難しい環境下、激震地・川南町で実施した。

■地域賞

FM 沖縄／届け！沖縄からのゆいまーる 東日本大震災支援チャリティコンサート What a wonderful world がんばれ東北！がんばれ日本！ in Okinawa

東日本大震災の発生を受け、被災地へ沖縄の音楽とゆいまーるの気持ちを届けたいとして、4月10日に沖縄県宜野湾市で73組のアーティストが参加して行われたチャリティコンサートを収録し、ライブ音源とアーティストからの応援コメントを翌週17日に21時から2時間の特別番組として放送した。当初は出演者、舞台、音響関係が手弁当でスタートした企画が、警備・シャトルバス・銀行・ボランティアや沖縄の各業界へとオール沖縄での協力へ広がり、のべ5万人が集まり約1,500万円を集めた完全無料のチャリティコンサートとなった。

■JFN功労賞

FM 佐賀／小川正則代表取締役社長

ふるさと雇用再生特別基金事業と緊急雇用創出事業を活用し、雇用創出のほか地域振興と番組コンテンツ制作をも両立させ、なおかつ営業面でも多大な恩恵を局にもたらす施策を導入した。その成功事例をJFN各局へ情報を共有する事により25局が事業を成立させ、全国の78自治体を取り込み、合計14億87百万円の売上に寄与した。

◎JFN賞・CM部門

JFN加盟38社のCM制作の向上とCMを通じて地域社会の文化に貢献することを目的として優秀CM作品を表彰するのが「JFN賞・CM部門」。

今年の審査対象は、JFN加盟各局が自社で企画または制作、放送したCMで、斬新な発想や演出と技法、地域性、公共性、影響力（CM効果）が審査基準となる。部門は、2010年6月1日から2011年5月31日までの間に制作・放送されたCMを競う、第1部門（20秒以内）、第2部門（21秒以上）、さらに加盟各局が協賛企業から提供されたテーマのもとでCM制作を競う統一部門がある。

エントリー総数118本のなかから大賞のほか、部門各賞（20秒以内、21秒以上）、統一部門賞が決定した。統一部門は今年、JAグループ「みんなのよい食プロジェクト」のCM制作を

競った。特別審査員長の天野祐吉氏（コラムニスト）、小野田隆雄氏（コピーライター）、弘兼憲史氏（漫画家）の3名の特別審査員をはじめ企業審査員、JFN各局のCM制作担当者38名により公開審査会が行われ、以下の各賞が決定した。

【JFN CM大賞】

TOKYO FM 「2011年の食卓」(JAグループ/40秒)

【第1部門 最優秀賞】 ※20秒以内（エントリー数=51本）

FM福岡 「うわさばなし」(安藤工事株式会社/20秒)

【第2部門 最優秀賞】 ※21秒以上（エントリー数=29本）

FM大阪 「おいしく」(株式会社恩地食品/60秒)

【統一部門 みんなのよい食プロジェクト賞】 エントリー数 40秒=38社38本

TOKYO FM 「2011年の食卓」(JAグループ/40秒)

【奨励賞】

○地域ブロック賞

- ・北海道・東北 FM青森 「東北新幹線全線開業キャンペーン」シリーズ
(社団法人青森県観光連盟/40秒)
- ・関東・甲信越・静岡 TOKYO FM 「シーソーメール～前CM用6月OA」
(株式会社NTTドコモ/120秒)
- ・中部・北陸 FM A I C H I 「父、あせる<午後5時前><午後6時前><午後7時前>」
(愛知県経済農業協同組合連合会/40秒)
- ・近畿・中国・四国 FM滋賀 『近江牛肉まん モーやる気まんまん!』泣ける青春編2」
(株式会社いのうえ/60秒)
- ・九州・沖縄 FM沖縄 「リサイクルのリズム」(拓南製鐵株式会社/40秒)

○出演者賞：AIR-G' (FM北海道) 「40歳のモノローグ」
(株式会社AEI INTER WORLD/60秒)

○コピー賞：TOKYO FM 「ヒューマンコンシャス「コトバ銀行」」
(TOKYO FM/60秒)

【制作者審査員賞】

TOKYO FM 「ヒューマンコンシャス『コトバ銀行』」(TOKYO FM/60秒)

【天野祐吉賞】

FM鹿児島 「母の日『大きくなったらお母さん 麻央 ver.』」(指宿白水館/60秒)

【小野田隆雄賞】

FM山陰 「いかにも山の陰って感じ」(JAグループ/40秒)

【弘兼憲史賞】

FM石川 「五色生菓子」(JAグループ/40秒)